P-067

GCUに入院している経口哺乳と経管栄養を併用している子どもを持つ親への退院指導の実態

鈴木 優理子、霜田 みゆき、岡本 友美
地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 小児医療センター

【背景・目的】
当院GCUでは経管栄養指導の割合が高く、その中でも経口哺乳と経管栄養を併用して退院する子どもが多い。在宅移行に向けて、退院後の生活を見据えた個別性のある指導が求められる。そこで、経口哺乳と経管栄養を併用している子どもの親への退院指導の実態を明らかにする。

【方法】
所属の倫理審査委員会の承認後、GCU看護師45名に独自の質問紙調査を実施した。対象者の概要や指導状況は単純集計を行った。また、指導で配慮していることや指導中の親からの質問内容等の記述をコード化し、類似性と相違性に従って分類しカテゴリー化した。

【結果】
GCU看護師28名より回答を得られた（回収率62.2%）。NICU・GCU平均経験年数6.6年、全員が指導経験があり、院内の指導用パンフレットを使用していた。指導時に個別性を意識していると回答した点では、5カテゴリーが抽出された。【経口哺乳から経管栄養への切り替えのタイミングを親と一緒に考える】、【子どもの身体状況を考慮した経口哺乳と経管栄養の実施ができるよう支援する】、【経口哺乳や経管栄養に対し親の抱く気持ちを理解する】、【退院後、親の不安なく経管栄養を実施できるための支援を行う】、【親や多職種と調整する】であった。指導中の親からの質問内容は、4カテゴリーが抽出された。【子どもの状態に合わせた経管栄養指導の実施】、【安全に経管栄養を実施するためのポイント】、【経管栄養の物品、管理方法】、【経管栄養に関連した子どもと親の苦痛】であった。

【考察】
本研究では、看護師は子どもの哺乳に対する意欲や身体状況を考慮し、経口哺乳と経管栄養を併用する指導を自身の経験や知識を踏まえ、親と一緒に考えながら行っていることが明らかとなった。親の気持ちに寄り添い、親が子どもの負担を考慮して哺乳時間の調整や経管栄養への切り替えの判断を主体的に行えるように配慮していると考えられる。また、親はミルクの増やし方や、子どもの状況に応じた注入方法の選択など、自宅で子どもを看るために必要な知識や技術の習得にニーズがあることが明らかとなった。GCUは、家族の始まりを支援し、親も子どもも成長する場である。親と一緒に考える指導が親の判断能力を育み、子どもの成長に応じたケアを親が自ら考え、養育できるような支援につながっていると考えられる。

P-068

乳幼児を育てる保護者のコロナ禍の生活の工夫

加藤 裕子、伊藤 良子、鴨下 加代、土路生 明美
県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科看護学コース

【目的】
コロナ禍の乳幼児の子育てにおいて家庭で行った生活の工夫を明らかにする

【方法】
A県内で乳幼児を育てる保護者を対象とし，基本属性，自由記載でコロナ禍の子育てと工夫した対処，乳幼児期の子育てニーズをWEBアンケート調査した。調査期間は2022年11月～12月だった。対象者は子育て支援センターへの調査依頼の掲示と子育てメルマガ登録者にメール案内をした。分析は自由記載の記述内容を内容的類似性に基づいて分類しカテゴリを生成した。分析は4名の研究者で協議し信頼性を担保した。本調査は，所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】
回答468名中，自由記載のあった239名（父親12名，母親227名）を対象とした。自由記載の内容から292コードが得られた。コードを内容から分類し，9サブカテゴリ（〈〉で表記），3カテゴリ（【】で表記）を抽出した。【具体的な感染対策】としては手指消毒やうがい，換気などを子どもも含めて〈清潔行動の促進〉し，なるべく家で過ごして〈外出の減少〉や保護者の予防接種を行うといった〈保護者の感染予防行動〉から構成された。【子どもの生活の充実】では家で過ごす時間を充実できるようベランダご飯やおもちゃや絵本を増やすといった〈遊びの工夫〉をし，オンラインでのイベント参加をするなど〈オンライン講座の活用〉や人の少ない公園に行ったり散歩をしたりと〈場所の選択〉を行っていた。【保護者の生活の調整】は規則正しい生活やバランスを考えた食事をとるなど〈生活の調整〉を行いながら，オンラインコミュニケーションツールの使用や，開いている子育て支援センターなどを利用して子どもを含めた交流や自分の友人との交流や家庭内でのコミュニケーションをとって〈他者とのかかわり〉をもつことや，完璧を求めずに開き直るなどで〈精神的な安定〉を図っていた。

【考察】
保護者は成長していく子どもたちへのネガティブな影響を少なくするべく，この時期にしかできない経験を積めるようにと生活への工夫をしていた。人が集い難い時期であっても，オンラインを使った交流を求め，子育て支援センターなどを求めている保護者たちがいたことから，保護者を孤立させない支援が必要であると考える。

Presented by Medical*Online